

# 男性看護師の教育・育成をテーマとした交流集会の意義とその評価についての検討

藤本泰博<sup>1)</sup>、前田貴彦<sup>2)</sup>、平田研人<sup>3)</sup>、上杉佑也<sup>2)</sup>、山田秀則<sup>4)</sup>、池上吾郎<sup>5)</sup>、岡山堯憲<sup>6)</sup>、辻本雄大<sup>7)</sup>、伊藤大輔<sup>8)</sup>

1) 聖マリアンナ医科大学病院、2) 三重県立看護大学、3) 天理よろづ相談所病、4) 名古屋掖済会病院、5) 南多摩病院  
6) 西宮協立脳神経外科病院、7) 奈良県立医科大学附属病院、8) 三重県立総合医療センター

## 研究目的

看護師に占める男性看護師の割合は、7.3%（平成28年）と未だ少数である。そのため、各施設や県単位、任意団体で男性看護師の交流や男性看護師と女性看護師のさらなる協同のために、交流会や研修会が開催されている。しかし、どのようなテーマや内容が参加者にとって有益であるのか、参加することにどのような意義があるのかなどは、十分に検討されていない。そこで、今回、交流を兼ねた男性看護師に関する研修会（以下：交流会）から、参加者の交流会に対する評価やワールドカフェの結果を明らかにし、交流会の有益性や開催意義について検討した。

## 交流会構成

平成29年X月 男性看護師の教育や育成に関するテーマで実施した。交流会は、**講演、シンポジウム、ワールドカフェ**の3部構成とした。

- ・ **講演** 総合病院の女性看護管理者による「男性看護師を育てる際の思いや考え、実際の取り組み等」について
- ・ **シンポジウム** 総合病院の女性の副看護部長と看護部長および男性の看護師長と看護師の計4名をシンポジストとした。各々「男性看護師の教育に関すること」「今後どのように育てていきたいか」「男性看護師としてどのように育ってきたか」のテーマでの発表後に参加者とともにディスカッションを行った。
- ・ **ワールドカフェ** 男性看護師について「育つ」「育てる」とのテーマで120分間実施した。グループ編成は、1グループ5～6名となるよう参加者をランダムに配置し、話し合われた内容を各グループで模造紙にまとめ、簡潔に発表を行い、全体で共有した。

## 倫理的配慮

本研究は、全国男性看護師会倫理審査委員会の承認を得て実施した。なお、本演題発表に関連して、開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

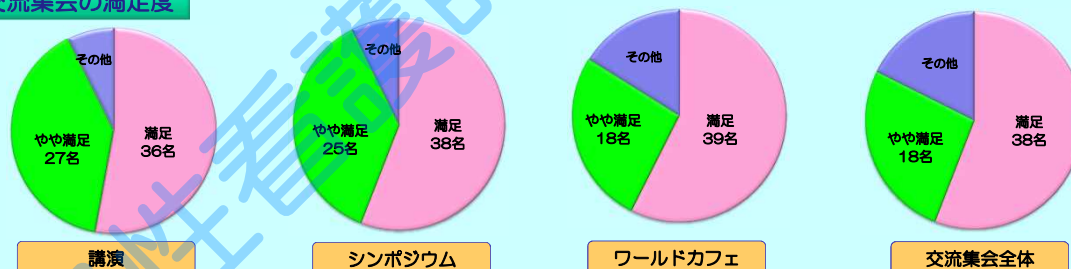
## 方法

- ・ **対象** 交流会に参加した看護職者112名
- ・ **調査方法** 交流会終了後に、無記名の一部選択式自記式質問紙調査を実施。質問紙の主な内容は、交流会に対する満足度や新たな発見等についての自由記述および模造紙に記載する自由記述内容とした。回収は、対象者自身が回収箱に投函する方法とした。
- ・ **分析方法** 選択式回答については、記述統計を行った。質問紙および模造紙の自由記述については内容の類似性から整理した。

## 結果

- ・ 回答者68名（回収率60.7%）で、**男性59名、女性9名**、平均年齢32.7歳（22～54歳）であった。

### 交流会の満足度



### ワールドカフェを通して考えたことや実践しようと思ったこと（抜粋）

テーマ：育つ・育てる

- ・ 同性同士が教えやすい、同性の指導者は安心感がある、男性のモデルが少なく『自分がモデルになるよう努力する』
- ・ ビジョンを持つこと、協調性が必要、目標を持つ、プライベートを充実させる
- ・ 女性の視点が必要、男性看護師にも褒めることが必要である（女性看護師）

### 男性看護師の教育体制や方法に対する課題や悩みの解決の程度

1 2 3 4 5 **★6** 7 8 9 10 (解決) 平均**5.15**



### 交流会への参加を通しての新たな発見や取り入れてみようと思ったこと（抜粋）

- ・ **男性看護師・女性看護師**：今まで意識していなかった男性看護師としての役割の再認識ができた
- ・ **女性看護師**：男女の違いや男性看護師の特徴を理解し教育にいかす  
苦戦している後輩男性看護師が男脳だとわかり、病棟会で発表し男性看護師の理解を深めていく
- ・ **男性看護師**：女性看護師や看護部に男性の特性を理解してもらえるように努力する  
客観的に自分を育ててもらえる姿勢をもつ

## 考察

参加者の満足度は高く、今回のテーマや構成が参加者にとって有益であったと評価できる。また、講演者やシンポジストに女性を加えたことで、男性・女性看護師互いの意見から、男性看護師の特徴や役割を理解したり、教育・育成について考えることができたり、女性看護師と混合で行うことは、より両者の理解を深めることにつながることを示唆された。男性看護師からは、前向きな意見が出されており、交流会が自己の役割やキャリアについて考える機会にもなっており、参加者にとって有意義であったと評価できる。